



### 3. 活動内容

愛知県立豊田東高等学校（総合学科）は、将来も継続して自分と地域の環境を考え持続可能な社会の担い手として、社会に貢献できる生徒の育成を目指しE S Dに取り組んでいる。E S D「持続可能な開発のための教育」を通して地域の人々、社会人の人々、海外の人々との交流が活発であり、人と人とのつながりの中で相手を理解し、自分の考えを深めている。また、地域社会や世界で活躍する外部講師の先生方の講演を通して、視野を広げ、多面的な物の見方ができるようになってきている。

本校では、「環境教育」、「国際理解教育」、「地域連携教育」を3つの柱としてE S Dに取り組んでいる。これらの実践は、個別の分野にとどまらず、相互に関連し合っており、今後よりいっそうの内容の充実に努めていきたい。

#### (1)〔主な取組〕

##### ア 環境教育

##### I セセラギプロジェクト

- ・セセラギプロジェクト報告（地域環境研究）

1学年「産業社会と人間」の授業で 地域環境研究として、地域環境研究セセラギプロジェクトを実施した。事前に講演会にて、矢作川の現状について講演していただき、後日野外活動を実施した。



- ・10月17日（月）講演会

講師 大同大学工学部准教授 鷺見 哲也氏・矢作川森林塾理事長 裕 伸夫氏  
名古屋大学大学院生 本校卒業生 田村 ユカ氏

今年度は、矢作川流域の変遷、自噴池の考察方法に加え新たにカメの調査も加わり、カメの生態や、急増し続ける外来種ミシシッピ・アカミミガメについての講義を受け、生徒達は興味関心を抱きながら、矢作川の環境問題についての考えを深めた。

- ・10月31日（月）御立公園とその周辺のフィールドワーク

協力団体 NPO法人矢作川森林塾・豊田市矢作川研究所  
国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所  
名古屋大学・大同大学・愛知学泉大学  
国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所

生徒たちは、散策路マップの作成、久澄橋下の都市林の整備、セセラギ自噴池の観察、水生生物や植物調査、加茂川水門下の魚道整備、環境整備などグループに分かれて活動した。その後の授業において、グループで活動報告書を作成し、指導していただいた矢作川森林塾を始め、大学、各研究機関へ提出した。また矢作川研究所主催矢作川学校シンポジウムに参加し、セセラギプロジェクト活動報告と矢作川を守るための、今後の対策と考えを発表し、現在の矢作川の外来種の状態を学んだ。



今後も御立公園の整備・研究を通して継続的に地域環境研究を進めていきたい。実際に講演を聴くことにより現状を知り、現地で活動することにより見聞を深め、事後学習で報告書をまとめさせた。そして、今後地域社会にどうかかわっていくかを考えさせた。生徒は活動を通して積極的に動き、矢作川の現状について地域の指導者に伺いを立てながら現状についての研究を進め、地域の人々と協力しながら環境問題についての考えを深めていくことができた。本活動を通して、自然と共に共存していくためには、自分たちがどう関わっていけば良いかを学ぶことができる有意義な機会となった。今後ともこの活動を続けることにより、地域の環境を考え、地域の人々に喜んでもらうことができるような研究を進めていきたい。

本活動は、地域の研究機関である豊田市矢作川研究所、NPO 法人矢作川森林塾などの有志団体、大同大学、愛知学泉大学、名古屋大学の教授や学生の方々などと連携を図っていることが特徴である。今後も御立公園の整備を通して地域環境研究を進めていきたい。

## II 獣害についての特別授業

### 1 はじめに

本校では、E S Dの取組の一つとして、本校のある豊田市の中心部を流れる矢作川とその流域（特に中山間地）の生物多様性保全を考え、そのより良い在り方を探究し、目指すべき姿の実現に向け行動することを目標としている。今回、豊田市の深刻な課題である獣害を取り上げ、その原因と対策を探ることにより、森林やそこに生息するイノシシ等の大型ほ乳類と人間との関わり方の在り方を生物多様性保全の視点で考え、それを守るために自分たちで何が行動できるか模索し、実際の行動につなげたいと考えている。

今回は、本校生徒の希望者を募り、特別授業を行った。平成 25 年度から本格的に獣害に関する実践を理科、家庭科などの教科から始めたが、課外活動にもつなげ、学校全体の活動にしていきたい。

### 2 内容

- ・実施日 平成 28 年 8 月 19 日（金） 9 : 30 ~ 16 : 00
- ・場所 豊田市山間部の農家と周辺の農地（午前）、豊田市小原支所（午後）
- ・講師 愛知県農業総合試験場 専門員
- ・実施内容 愛知県農業総合試験場の担当者から害獣駆除を含めた獣害対策の説明を受ける。また、実際に獣害被害を受けている農家を訪れ、獣害対策の実際を理解し、参加者一人一人が自分なりに対策を考えてみる。

### 3 活動状況



フィールド調査



グループごとにまとめる



地域の方に成果発表

生徒は、フィールド調査や話し合い活動を通して、「イノシシと人間がうまく共存できる状態に戻すのは、人間の責任。これから、イノシシとほかの生物がうまく共存できるような仕組みを考えたい」というような意見を持つことができた。地域の方からも「若い世代が獣害に興味を持ってくれるのはとてもうれしい」という言葉をいただくことができた。

## イ国際理解教育

### ・文化交流

本年度も、中国・広東省の高校生、オーストラリア姉妹校生徒、アジア各国の環境保全団体オイスカ農業実習生との文化交流、ウガンダやオーストラリアの生徒との文通交流、長崎在住の留学生との交流等を通して異文化理解研究を進めた。実際に会話や、活動を通して親しみと敬意をもって接することができた。活動を通してもっと相手を知りたい、自分や日本のことを理解してもらいたいと異文化理解への興味関心を高めることができた。

### ・ 7月14日（木） 中国・広東省の高校生との文化交流

中国語選択者、IFC部、一学年英語表現選択者  
中国広東省の高校生20名が本校

交流授業と交流会を実施した。本校の生徒が写真を見せながら日本の紹介をし、日本と中国の学校生活の違いについてグループワークを行なった。パン販売や自動販売機があると伝えると羨ましがられ、訪問した高校生たちから3000人の生徒が寮生活をしていると聞くと、今度は本校の生徒が驚きの声を上げていた。中国語選択者と一緒に昼食をとった後には、交流行事が行なわれました。訪問団は伝統舞踊や歌を披露してくださり、本校生徒はソーラン節を披露した。その後、華道体験やIFC部で英会話による双方の文化交流を楽しんでもらい、無事日程を終えた。短い双方の生徒にとって貴重な経験となった。

### ・ 9月10日（土）から19日（月）オーストラリア姉妹校生徒との交流

オーストラリアのパスコベール女子高等学校から12名の生徒と2名の先生が来校  
授業や、部活動、課外活動等の活動を共に行なうことにより、異文化理解を深めることができた。

### ・ 11月 5日（土） 二学年対象

演題 「アジア各国の生活と文化」

講師 オイスカ 中部日本研修センター 宗像 ジュイエ 氏 他 研修生6名

アジア・太平洋地域を中心に農村開発や環境保全活動を展開している公益財団法人オイスカの研修生（インドネシア、スリランカ、パプアニューギニア、フィジー、フィリピン、ミャンマー出身）に自国の生活と文化について講演していただいた後、フィリピンの伝統芸能や、日本の文化を通して交流を深めた。

### ・ 2月 9日（木） 一学年対象

演題 「アジア各国の生活と文化」

講師 オイスカ 中部日本研修センター

宗像 ジュイエ 氏 他 研修生2名

メキシコ、パプアニューギニアの生活と文化について講演していただいた後、民族ダンスを通して交流を深めた。



### ・ 外部講師による国際理解講座の実施

ESD活動の一環である、環境問題や国際理解をテーマにした講演会を実施した。

環境問題、国際問題についての話を伺い、多面的なものの見方や考え方を身につけた。国際社会のみならず、地域社会の中で将来求められる社会人としてのあり方について考えを深めた。また、地域社会や世界で活躍する外部講師の先生方の講演を通して、視野を広げ、多面的な物の見方ができるようになった。

- ・ 6月13日（月） 二学年対象  
 演題 「国際化社会の現状」  
 講師 名古屋大学 特任教授 勝田 幸秀 氏  
 国際協力機構（JICA）所長としてのタンザニアやジンバブエなどアフリカでの勤務経験をもとに発展途上国の人々の生活や誠実な人間性等「発展途上国は特別な場所ではなく、実はとても面白いところ」とお話しいただいた。
- ・ 11月 9日（月） 一学年対象  
 演題 「砂漠に生命を」  
 講師 グリーングラスロッツ代表 光岡 保之氏
- ・ 11月 1日（火） 「発展英語」（2年生外国語プラン選択者）  
 「異文化理解」（3年生外国語プラン全員）  
 演題 「グローバル時代に対する職業人生設計のヒント」  
 講師 愛・知・みらいフォーラム講師 坂野耕三氏  
 世界には英語だけではなく、いろいろな言語があり、歴史、文化があるということ、そういった環境の中で、互いに理解し合うことの大切さを改めて考えさせていただきました。また、経験や実体験を通して知識や考察力を培っていくことの大切さについてお話しいただきました。英語の学習に意欲的に取り組んでいる生徒達にとって、異文化理解研究への励みになりました。
- ・ 11月17日（月） 二学年対象  
 演題 「グローバル時代に対する職業人生設計のヒント」  
 講師 愛・知・みらいフォーラム講師 近藤 敏夫氏
- ・ 12月21日（水） 外国語プラン、文プラン2年生3年生  
 演題 「フィリピンの生活（昔～現代）、文化」  
 講師 公益財団法人オイスカ中部日本研修センター  
 農業指導員マイケル・アキノ氏  
 パワーポイントに美しく映し出された珍しい食べ物、美しい風景や農村の映像をもとに、フィリピンの生活や文化についてお話をさせていただきました。求婚のためのギターでラブソングを奏でる風習などについて英語で講演していただいた後、美しいラブソングの弾き語りをしていただきました。日本との違いや共通点に気づき、フィリピンの生活や文化に対する興味関心が高まりました。
- ・ 2月20日（月） 二学年対象  
 演題 「海外技術協力の経験から仲間が広がり繋がる素晴らしさについて」  
 講師 愛・知・みらいフォーラム講師 稲守 宏氏  
 国際社会における日本の企業のあり方、海外技術協力、エネルギー事情に関連する世界の環境問題等、国際社会での経験を通してのご自身の見解や考えを講演していただき、次世代を担う若者へのメッセージをお伝え頂きました。生徒達は、海外の人々の働く様子や生活を伺いながら、相手の立場に立った物の見方や広い視野をもって、世界を見ることの大切さについて学びました。

## ウ地域連携教育

「地域連携教育」としては、桜町本通り商店街との連携を継続し、自作の紙芝居を読み聞かせたり、模擬店を出店するなど実際に地域の人々との触れ合いを通じて交流を深めている。桜町本通り商店街では12月と1月の夜、足助の「たんころりん」にヒントを得て、あんどんを灯している。

また、調理実習で獣害問題になっているイノシシの肉を利用し、自分達で工夫し考えた創作料理を調理している。

- ① 5月22日（日） ふれ愛フェスタ2016  
参加者：保育プラン、写真科学部・科学班、美術部、JRC部、  
家庭部138名が参加  
内容：駅前商店街の活性化イベントにおける催し物の企画・運営  
場所：桜町本通り商店街
- ② 5月8日（日）、8月8日（月） チーム八日市  
内容：桜町本通り商店街において、毎月8日に開かれる「八日市」が学校休業日と重なったときに、販売補助や部活動の野外発表を実施。  
5月は84名のボランティア、科学部部員、箏曲部部員が演奏を披露  
8月は24名のボランティア、科学部部員、合唱部部員が歌声を披露  
場所：桜町本通り商店街
- ③ 10月29日（土）とよたアートハロウィン  
内容：2年美術プランの生徒8人が幅3.6メートル、高さ1.8メートルのパネル三枚に絵を描き展示した。また3年服飾プランの有志10人はハロウィン当日の29日に会場に訪れる子ども達に着てもらおうハロウィンの仮装用衣装を製作した。  
場所：豊田のまちなか（GAZA広場）
- ④ 12月16日（金）野見小学校の児童とのクリスマス交流会  
参加者：福祉プラン、JRC部  
場所：野見小学校
- ⑤ 12月17日（土）レッドリボンメッセージコンサート  
内容：豊田市、ソロプチミスト豊田と連携した12月のエイズ防止キャンペーン  
合唱部が歌を披露し、JRC部がエイズ啓発メッセージを発表した後、最後に吹奏楽部が演奏を行なった。  
参加者：JRC部、合唱部、吹奏楽部  
場所：豊田市駅前通り

以上のように、本校の地域連携は、部活動によるボランティア参加のほか、各科目選択プランの授業実践の場として機能している。

## （2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（